

世界の国々を調べよう ケニア

言語活動の充実と協同学習の活用

和歌山県紀美野町立野上中学校 福田 匡

はじめに

新学習指導要領には、言語活動の充実が明記されている。また、文部科学省はPISA調査の読解力の改善は、「現行学習指導要領で子どもに身に付けさせたいと考えている資質・能力と相通じるものであることから、学習指導要領のねらいとするところの徹底が重要である。」としている。そこで、「世界の国調べ」の単元においても、これらを十分意識した学習を進めていくことが生徒の学力を伸ばしていくことにつながると考える。

2 学習における留意点

現行の学習指導要領には、「資料の収集・整理」「課題の設定と考察」「調べた結果の整理・伝達」の調査段階をふまえて、学習指導計画を作成することになっている。

そこで調べ学習を生徒に行わせる際、生徒に下記の①～③の視点を理解させておく必要がある。

①課題設定の視点

- ・多面的・多角的にその国の様子をとらえ分析できる課題であること。

②調べ学習の視点

- ・調査項目の設定。
- ・調査内容の明確化。
- ・調査方法の工夫。
- ・調査結果の表現・伝達方法。

③評価の視点

- ・評価の方法（ポートフォリオを中心とした評

価・学習活動)

- ・個人学習・グループ学習・一斉学習による学びの変容・貢献度合い、探究内容を評価する。
- ・資料分析や活動による情報の交流内容、根拠のある思考については表現したものを評価する。
- ・情報交換や討議および改善手続き(振り返り)による探究の度合いに着目する。

これらを明確にすることで、生徒が単元の学習の見通し、課題解決学習を主体的に行うことができると考える。習得した知識や学び方は、言語活動を生かした学習や協同学習をとおして繰り返し活用されることにより、定着していく。また、生徒が課題解決に向かうことが探究する姿勢を培うことにつながるのである。

3 協同学習の活用

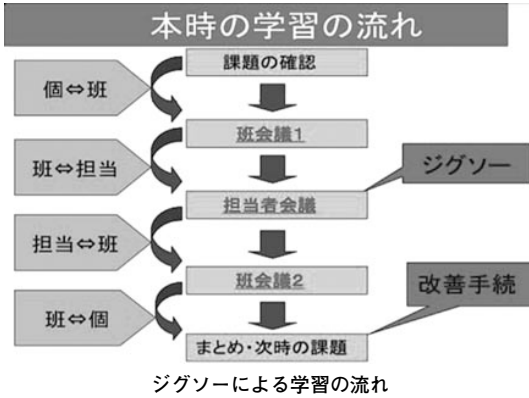
「世界の国々を調べよう」の単元において、協同学習の事例を提案する。協同学習は、「①互恵的な相互依存関係」「②対面的な相互関係」「③個人としての責任」「④社会的スキルや小グループでの運営スキル」「⑤集団の改善手続き」の5つの要素で形成されている。

個別学習の「調べ方が浅い」「情報の収集が少ない」「単一的なものの見方にとらわれてしまう」などの問題点や、グループ学習の「他者に頼ってしまう」「他者の調べを吟味せずにそのまま自分の意見にする」などの問題点に対して、協同学習は、個が学習課題について責任をもって取り組み、他者に情報提供することや、共有する情報の中か

ら必要な内容を取捨選択し、自らの学習を深めることができる。さらに改善手続きにより、主体的に学習内容の改善が行われるなどの利点がある。

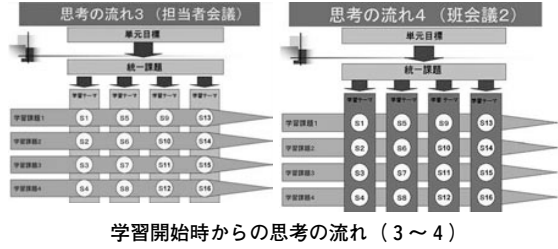
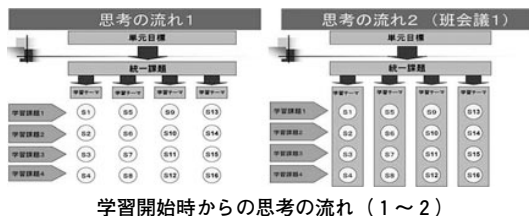
4 調べ学習の方法例（ジグソーの活用）

調べ学習の効果的な方法の一つとして、ジグソーがある。ジグソーによる学習の前時において、班の学習テーマを設定し、グループ内の一人ひとりが他者と重複しないように、学習課題を請け負う。そして、断片的な内容で異質な学習を行う。その際、資料の出典や考察の根拠を明確にすることが必要である。



ジグソーによる学習では、まず、班会議で自分が担当した学習課題を紹介しあうことにより班で設定した学習テーマに迫っていく。

次に、役割分担により調べた内容をより一層充実したものにするために、班を離れ、同じ学習課題を担当する者同士（担当者会議）で、学習課題を紹介し検証する。そこで、学習課題の吟味や情報の取捨選択を行う。



そして、班にもどり担当者会議で整理した学習課題や得た情報を伝達し、再度、班で設定した学習テーマの解決に向けて班員全員で考察し、最終的には個で学習テーマの改善手続き（振り返り）を行う。

5 学習指導計画例（ケニアを調べる）

生徒が共通して使用する資料は、教科書「中学生の地理 初訂版」、地図帳「中学校社会科地図初訂版」、補助教材「中学校スタンダード地理資料・ワーク」とする。

第1次…ケニア調べの導入例

- ケニアのイメージを膨らませ、「学習テーマ」「学習課題」の設定を行う。



大農園での茶のつみ取り
「中学校スタンダード地理資料・ワーク」p.84・p.86



近代的なナイロビ市内
「もっと知りたい日本と世界のすがた」p.189

●学習方法の確認。

地図帳の活用

- ・位置 (p.1～3) ・詳細地図・国旗 (p.33～34)
- ・統計資料 (p.129～130)
- ・首都、首都人口、人口密度、面積、貿易関係・宗教・言語 など

教科書の活用

- ・調べ方 (p.129)
- ・口絵4 (右下 ケニア)
- ・国境線 (p.12～13)
- ・日本との時差 (p.18～19)
- ・距離 (p.20～21)
- ・地震・火山 (p.132～133)
- ・気候区分 (p.138～143)
- ・生活文化 (p.172～173)
- ・農業生産 (p.198～199)
- ・エネルギー・鉱産資源 (p.184～187)
- ・交通・通信網 (p.162～163) など

補助教材の活用

- ・自然 (p.84)
- ・気候 (p.104)
- ・民族・歴史・経済 (p.85～87)
- ・生活・文化 (p.126～127)
- ・農業 (p.150～153)
- ・資源・産業 (p.134～138)
- ・鉱工業 (p.134～147) など

HP・パンフレットの活用

- ・外務省・駐日ケニア大使館
- ・日本貿易振興機構 JETRO・国際協力機構 JICA

・旅行会社パンフレット・各種出版物 など

第2次…学習テーマ・学習課題の設定

学習テーマおよび学習課題は、様々なパターンが考えられる。これらはあくまでもケニアを調べるための数多くある窓口の一つとして、個の学習課題が複数の学習課題と関連づけられるものを設定する。

●班で学習を設定する (学習テーマ例)

- 「茶からみるケニア」
- 「動物の楽園 ケニア」
- 「観光おすすめスポット」
- 「三ツ星ケニア」 など

●学習課題 (調査項目を分担する)

[学習課題例]

- ※生活文化…「衣食住」「民族」「宗教」
- ※自然環境…「気候」「地形」「土地利用」
- ※産業…「茶」「切り花」「観光」「貿易」
- ※国際関係…「歴史」「外交関係」「貿易」

第3次…調べを行う (調査活動例)

●協同学習で行う。

- ・学習のテーマおよび個の役割を設定する。
- ・個で調べを行う。
- ・ジグソーによる学習

班会議→担当者会議→班会議
→個の振り返り (改善手続き) …本時

●学習テーマ「茶からみるケニア」の班による本時の学習活動例

[1]班会議1 (15分)

ポイント

- ・班の学習テーマ解決に向けて、個の学習課題の調べを伝達し、吟味する。
- ※調べが適切か。
- ※調べた内容の根拠が明確か。

※調べが他の学習課題と関連しているか。

- ①ケニアの気候と地形、茶の生産との関連性。
- ②茶の生産量と貿易額の推移。
- ③貿易相手国との関係と輸入品目。
- ④都市生活の変化や国民の伝統的な生活（衣食住）と経済の向上とともにみられた生活の変化。
- ⑤ケニアの茶産業が欧米諸国との歴史的なかかわりの中で広がったこと。
- ⑥上記①～⑤について、写真、図表、雨温図などを根拠にして説明することによって、ケニアの地理的条件を中心に、歴史、産業、文化、国民生活がたがいに関連していることに気づくことができると考える。

[2]担当者会議 (15分)

ポイント

- ・現状報告・質疑応答を行う。
- ※調べた内容の根拠が明確か。
- ※学習課題に沿っているか。

学習テーマと個の調べを伝達し、質疑応答する。そして、他産業との関連や都市化や土地利用の変化、観光と動物保護区状況、伝染病や栄養失調での子どもの死亡率、経済的格差の問題など、ケニアを多面的・多角的にとらえた情報から、自分の班の学習テーマと関連のある内容を得ることができると考える。

[3]班会議 2 (20分)

ポイント

- ・担当者会議で得た必要な情報を伝達する。
- ・学習課題の改善内容を確認する。
- ・班の学習テーマ解決にむけて話し合う。
- ・個々に振り返りを行う。(改善手続き)
- ・次回の学習目標と内容を確認する。
- ※学習テーマ解決に向けて根拠が明確か。
- ※班の学習テーマの解決に迫れたか。

担当者会議で知り得た情報を交換する。たとえば、茶や切り花の増産と都市化における開発の拡大、動物の行動範囲の縮小における動物保護区の設定における問題点などをとらえ、地理的分野の目標に沿って学習を深めていくことができると考える。

- 個が学習課題を設定して、再度、調べ学習を行う。

第4次…レポートおよびポスターを作成

- 主題図を中心にポスターを作成し、詳細の説明についてはレポートに記述する。

第5次…ポスターセッション

- ポスターセッションにおいて意見交流を行い、ケニアについて、多角的・多面的に分析を深める。

6 おわりに

調べ学習では、学習テーマを設定し、学習課題を切り込み口として、一つの国の多面的な要素を多角的に考察し、学習を深めることが大切であると考える。個が習得した知識や技能は、学習活動の中で発信・収集・分析・取捨選択される。そして、吟味された情報を活用して学習課題を探求していくことが動態地誌的な学習につながっていくと考える。

また、今回のように、協同学習を活用した授業実践では、指導計画、評価計画、評価方法、課題設定、授業方法、支援の方法について、しっかりと関連させ、構築しておく必要がある。そして、生徒が習得した知識や技能を活用し、思考・判断を深め、豊かに表現するために、言語活動が果たす役割は大きいのである。さらに、学習活動においては、個人・小グループ・一斉という多種多様な学習形態の学習を行うことで、生徒一人ひとりが活躍できる場数を数多く設定できると考える。